事業概要

本事業に取り組む背景

2016年に発生した熊本地震。当時、私たちは熊本市男女共同参画センターはあもにいの指定管理者として会館運営に取り組んでいた。発災直後から全国の男女共同参画センターや関係者の支援を受け、性被害防止の啓発や避難所の環境改善などに取り組む中で、ジェンダー視点での避難者支援が浸透していないことによる避難所の混乱や避難者の負担感増という現実に直面した。また、センターを運営する自分たちにもその自覚も平時からの実践も全くできていなかったことを猛反省した。そして一刻も早く男女共同参画の視点による防災･減災を啓発していこうと県内外への発信を開始し、2018年からは、くまもと県民交流館パレアの指定管理者として県内全域での啓発にも注力した。

しかしながら昨今の頻発する災害に現状の啓発ではとうてい間に合わないという焦りの渦中に、休眠預金活用事業「女性のエンパワメントで高める地域の防災力リーダー育成プログラム」にエントリーする機会を得て、受託するに至った。







熊本地震で直面した課題（一部抜粋）

避難所で「おなごは引っ込んどけ！」と、言われ、話も聞いてもらえなかった

家を片付けるにも仕事に行くにも、子どもを預かってくれるところがない

収入が途絶え、経済的に困窮した
（シングルマザー）

避難所に行きたくても行くことができない、居られない
（LGBTQ、外国人、障がい者、高齢者、子育てファミリーなど）

人が多すぎて避難所の障がい者用トイレも優先的に使えなかった

避難所で寝ているときに体を触られ怖い思いをした

生理用品などを受け取りに行きにくい
（性的マイノリティの方）

知的障がいのある娘が、少し目を離したときに性的被害に遭いそうになった。非日常の中で障がいのある女性や少女、子どもたちの性的被害の危険性は高い

車中泊を選んだのは自分たちの優先順位は低いだろうと思ったから
（外国人シングルマザー）

ずっと張り詰めたままの支援者が、疲れ切っている

本事業で掲げた目標

1. 女性防災リーダーの人材ネットワークが構築され、実働し始めている
2. 修了生一人ひとりが目指す目標に向かって相乗効果を生み出せるネットワークになっている
3. 修了生の中から、防災会議の委員になる人が出始めている
4. 男女共同参画の視点を取り入れた防災･減災活動が、さまざまな各地でも積極的に行われている

実施期間

1期 2023年4月～9月（26名修了）　2期 2024年4月～9月（32名修了）

事業のポイント･プログラム内容

STEP❶
男女共同参画の視点に関する基礎的な知識を学ぶ

第1回 オリエンテーション	参加目的を教え合い、お互いを知るワーク 基礎講座「ジェンダー視点から見た災害時の課題と対応の方向性」

STEP❷
熊本地震を振り返り、その現状と課題を知る

第2回 熊本地震の現場から①	「避難所運営について」 「避難所運営訓練（HUG）」
第3回 熊本地震の現場から②	「熊本学園大学避難所運営の経験･課題」（福祉避難所） 「熊本市男女共同参画センターはあもにいの取り組み」
第4回 熊本地震の現場から③	「性的マイノリティの困難と支援」 「外国人の困難と支援」
第5回 熊本地震の現場から④	「子ども･女性の困難と支援」 災害時の女性と子どもに対する暴力問題 「防災領域における女性活躍のこれから」
熊本地震の現場から	「障がいのある女性の困難と支援」　※2 期

STEP❸
被災地視察

被災地視察（東北2泊3日）	被災地の復興に向けた女性リーダーの果たす役割について見聞を広める

STEP❹
リーダーとして必要とされるスキルの習得

第6回：リーダーとしてのスキルアップ①	「メンタルケアとレジリエンスワークショップ」 東北視察振り返り
第7回：リーダーとしてのスキルアップ②	「アクションに向けてのファシリテーションワークショップ」
スキルアップ実践編	「親子向けワークショップの実践編」　※2 期
スキルアップ実践編	「地域における活動実践　個別避難計画」　※2 期

STEP❺
地域活動の実践

地域での実践活動	